



HTLV-1抗体陽性妊婦

意思決定支援編

厚生労働科学研究 成育疾患克服等次世代育成基盤事業 (H23-次世代-指定-008)
「HTLV-1母子感染予防に関する研究:HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究」
運営・研究代表者:昭和大学医学部小児科 板橋家頭夫

ナレーション:このチャプタでは、検査後の栄養方法を例にとって、HTLV-1抗体陽性妊婦への意思決定支援についてその具体的な「手段・方法」について説明します。

HTLV-1に関わる意思決定支援が必要な場面

ナレーション: HTLV-1検査に関わる意思決定の支援は、

HTLV-1に関わる意思決定支援が必要な場面

妊娠中にHTLV-1検査を受けるとき

妊娠中に抗体陽性がわかったとき

妊娠中に授乳方法の選択をするとき

妊娠中に決めたことを変えたいとき

産後に決めたことを変えたいとき

授乳方法の選択によって生じる身体的・
心理的・社会的・経済的变化に対応するとき



ナレーション: スライドに示すように、栄養方法の選択のみではありません。

検査を受ける時、抗体陽性が分かった時、決めたことをかえたい時、
心理的や経済的变化に対応しなければならない時など、
様々な意思決定支援が必要な場面が考えられます

栄養方法の相談においても、これまでどのような経過であったのか、
この先どのようなことが生じるのかも予測しながら関わる必要があります。

意思決定支援が必要となる状況

2つ以上の選択肢があり、
決められない状況、**葛藤状況**で必要になる。

ナレーション: 意思決定支援は、2つ以上の選択肢があって「決められない状況」、すなわち「葛藤状況」において必要となります。

葛藤が生じる要因

- 1** (医療における) 選択肢にはメリットとデメリットの両方が存在するために、不確か(曖昧)な状況になる。
例) 母乳における免疫等のメリットと感染のリスクが高まるデメリット
- 2** 医療における選択肢の効果は、明らかになっていないことも多い
例) 各種栄養法を選択した場合の感染率と発症率成績が不十分
- 3** その他の意思決定を難しくする状況

ナレーション: 葛藤は、スライドにあるように、選択肢のメリットとデメリットの両方がある場合や、選択肢に関するデータが不十分である場合に生じます。
そのほかに、本来むずかしい決定を、さらに難しくする状況があります

3. その他の意思決定を難しくする状況

知識の不足

見通しがもてない

曖昧な価値にさらされている状況

社会的な圧力をうけている

周囲のサポートが足りない

情報ソースの欠如

周囲と自分の思惑が違う



ナレーション:例えば、
知識自体が不足している。
曖昧な価値に惑わされている。曖昧な価値にさらされている。
周囲のサポートが得られない。得られにくい。
周囲と自分の思惑が違っている、などの状況が考えられます。

これらの状況が、がさらに決定を難しくするといわれています。

栄養方法選択以外の「葛藤や不安」

ナレーション: 栄養方法の選択以外にも、妊婦は

栄養方法選択以外の「葛藤や不安」

- | | |
|---------------------------|--|
| A. 個人に関わること | ATLやHAM発症への不安や恐怖、
母乳をあげられないことへのSE低下、次の分娩のこと
SE (セルフエスティーム:自尊感情)
ATL (Adult T cell Leukemia:成人T細胞白血病)
HAM (HTLV-1 associated myelopathy:HTLV-1関連脊髄症:) |
| B. ウィルスを共有する
関係者に関わること | 感染および発症(夫、子ども、上の子ども、親、兄弟)、
子どもへの申し訳なさ、罪悪感、告知(子ども、親、兄弟)、育児 |
| C. 医療に関わること | 医療者の説明の不一致、支援の継続性への不安、
治療法がない、病気か否か不明瞭 |
| D. 社会に関わること | 情報の扱われ方・風評、地域的な問題 |

ナレーション:さまざまな葛藤や不安を抱えています。

個人に関わることでは、ATLやHAM発症への不安や恐怖、ウィルスを共有する関係者に関わることでは、子どもへの感染など、夫や子どもへの罪悪感など、医療に関わることでは、医療者の説明の不一致など、社会に関わることでは、情報の扱われ方、風評、地域的な問題など、様々な葛藤と不安を抱えています

医療者が、こともの栄養方法の選択による相談で出会った場合でも、その妊婦が抱えている心理的課題を多角的に理解することが必要で、その課題解決に向けた継続ケアが必要です。その心理的課題は、妊娠経過や出産後の経過によって、また時間の流れの中でも変化していきます。この時間軸の中での変化に対応できる支援体制と継続ケアが必要になるのです。

HTLV-1抗体検査陽性(保留判定を含む)妊婦が
栄養方法を選択する際に、
看護職としてアセスメントする視点



ナレーション:妊婦の栄養方法の選択を支援する時に、
看護職として、特にアセスメントすべき視点をスライドに示しました。

HTLV-1抗体検査陽性(保留判定を含む)妊婦が
栄養方法を選択する際に、
看護職としてアセスメントする視点

- 1) 葛藤の程度
- 2) 意思決定過程とそれに関連する要素
- 3) 個人の特徴: 栄養方法に対する価値観、職業の有無
- 4) 家族の特徴: 上の子の栄養方法および健康状況、
家族の健康状況



ナレーション:例えば、栄養方法について、どの程度、決めかねているのかの「葛藤の程度」、すでに決めているのか、全く決めていないのかなどの「意思決定過程とそれに関連する要素」。栄養方法に対する価値観、職業の有無等などの「個人の特徴」、経産婦の場合は、第1子の栄養方法をどうしたか、そのこどもの健康状況など、いわゆる「家族の特徴」などがあげられます